

たはら 歴史探訪 クラブ 其の75

TAHARA
History Inquiry
Club

地名から歴史を探る 1

地名は、その土地の自然環境、歴史的な成り立ちを表し、他の土地との区別をつけ、人々が共通の認識を得るためにつけられます。かしこまった名前もありますし、仲間うちだけのニックネーム的な意味を備えている場合もあります。「共通の認識」という点では、地名は、不動産である土地や建物の所在、個人・法人の所在する住所を示す役割があります。ただ、地区の人だけにしかわからない、地図にも住所にも載っていない地名もあります。



「皿焼」「皿山」の由来となった山茶わん・小皿

七ッ釜（大久保町）。この地名で思い出す歴史はないでしょうか。そう、「釜」すなわち「窯」は、平安時代終わりから鎌倉時代にかけて一大生産地だった渥美焼の窯跡を示しています。また、通称として「皿焼」（市史跡皿焼12号窯・小塩津町）、「皿山」（県史跡皿山古窯群・和地町）の地名がありますが、皿は、当時主に焼いていたどんぶり鉢ほどの大きさの茶わん（山茶わん）および、それとセットになる小さな皿を指すと思われまます。「皿焼」「皿山」は、当時から皿が見つかる不思議な場所として認識されていたと思います。このほか、奈良・東大寺の再建瓦を焼いた国史跡伊良湖東大寺瓦窯跡（伊良湖町）の地名も「瓦場」と、まさに地名と遺跡の存在がぴったりはまっています。

「たはら記」という江戸時代の終わりの歴史書には、谷ノ口地区に「七ッ釜 東ヶ谷入合山ノ内二有之 穴七ッ御座候・是八古来ノ皿穴ノ由申伝候」と、窯跡の存在を示す表現があります。谷ノ口地区には現在、七ッ釜という地名はありませんが、大久保町の七ッ釜（七ッ釜古窯）という地名の成り立ちも、命名された当時、このように思われていたのではないのでしょうか。

加治町には「坪沢」という地名があります。ここには、田原市でも最も多い窯数で碗や壺をたくさん焼いた「坪沢古窯」があります。「坪」を「壺」、「沢」を窯が立地する斜面と結びつけ、壺が見つかる沢だとすれば「なんとぴったり!!」
：とききたいところですが、この坪が巻き貝の「螺」の訛りだとしたら、その由来が沢に生息する淡水産の巻き貝（タニシ？）から来ていることも考えられ、ここに地名の読み解きの難しさがあります。（増山）

文化財課 23局3531



地名どおり近くに窯跡がある「七ッ釜古窯（中央の森）」